



しんがき
第100号
令和3年
1月15日発行

芳川の里のさらなる発展を願って

理事長 長坂 輝夫

地域の方々の願いを一つに、1996年にスタートした「芳川の里」。これまで数えきれないほどの多くの方々の支えのおかげで、今日の芳川の里・いしはらの里があります。会報「いきいき」も100号を迎えました。この紙面をお借りしまして、あらためて感謝申し上げます。2020年は日本をはじめ世界中がコロナ禍に見舞われ、これまで見えてこなかった社会の弱点が浮き彫りになったように思います。その一方で、お互いにこれまで、人と人とのつながりを大切にし、支えあってきたことの大切さも再確認できたと思います。

3年に一度の介護報酬改定の時期を迎えています。よりよい介護をめざして施設の運営を励まし、職員の負担を軽減するためには、介護報酬の改善が待ったなしです。75歳以上の医療費窓口2割負担の対象拡大の動きも高齢者にとって大きな負担増になります。人口減少の中でわずかな時間短縮のためのリニア新幹線などやめて、その財源を、コロナ禍のもとでこそ、国民の福祉や医療の充実、きめこまやかな支援のために活用すべきだと、切実に感じています。

今年も、コロナ対策を工夫して行いつつ、平和で安心した暮らしを過ごせるようにしたいものだと思います。よろしくお願ひいたします。